

## 令和2年度第3回加古川市まち・ひと・しごと創生戦略会議 議事録

- 1 開催日 令和2年12月8日(火) 10:00～11:00
- 2 開催場所 加古川市役所 新館10階 大会議室
- 3 出席した委員 岡田市長、  
片平委員、柳井委員、田端委員、竹田委員、破魔委員、秋田委員、  
河野委員、石井委員、伊藤委員、原口委員  
(欠席：徳田委員、柚山委員)
- 4 出席した職員 井ノ口企画部長、神戸企画部次長  
竹中企画部参事(兼政策企画課長)、杉野政策企画課副課長、  
伊藤政策推進係長、沼田地方創生担当係長、村上政策推進係主査
- 5 傍聴者 1人
- 6 議事の要旨
  - 開会
  - 市長あいさつ
  - 第2期加古川市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について【資料1・2】  
事務局より「資料1・2」について説明

市長： 第2期加古川市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下、「第2期総合戦略」という。) (案)における指標の目標値の設定については正解があるわけではないので、各施策の効果を測るための基準として考えている。また、市民の満足度については、事務局からの説明のとおり、市民の方3,000名を対象に毎年度実施している市民意識調査の数値であり、毎回4割以上の方からご回答いただいているため、統計学的にみても、しっかりと集計ができているものである。これまでの実績として満足度が70.0%以上のものについては、私自身の感触としても市民の方の満足度が高い施策であると考えており、このたび、お示しした市民の満足度の目標値としても、70.0%や75.0%を目指したいと考えている。

委員： 念のための確認になるが、基本目標3の基本目標指標「転出超過数」は、10ページに記載の全体目標指標「20～44歳の転出超過数」と同一のものではなく、全体の数値を別に設定するという理解でよいか。

事務局： そのとおりである。「20～44歳の転出超過数」については、本市の人口推移の現状からみて、第2期総合戦略（案）における解決すべき重点課題の一つとして掲げたものであり、9ページに記載の第2期人口ビジョンの将来の目標人口にも反映させてきたことから、全体の進捗を測る指標として設定したものである。基本目標3の「転出超過数」については、基本目標名称の「住みたいまち、行きたいまち」の実現につながるよう、全体の転出超過数を設定することで整理している。

委員： 指標名称として「転出超過数」を用いた理由をお伺いしたい。転出超過ということ、加古川市への転入よりも加古川市からの転出が多い状態を表している。人口の考え方としては、転入を促進する、転出を抑制するの2つがあるが、市としてはどちらの考え方なのか。大学や専門学校等への進学に伴う若者の転出を抑制することは非常に難しいこともあり、卒業後のUターン等による転入を増やす考え方も重要であることからお伺いする。

事務局： 第2期総合戦略（案）では、これまで注力してきた子育て施策に加え、新たに「しごと（働く場）の創出」を重点施策に掲げていることから、転入の促進、転出の抑制のための施策を両輪で進めていきたいと考えている。ただ、本市の現状としては、転出超過の状況が続いており、かつ全国的にも注目されている数値となっていることから、指標名称としては「転出超過数」として設定したところである。

委員： まず、第2期総合戦略（案）と第1期総合戦略の指標を比較すると内容が大きく変わっていることがわかる。個人的に、第2期総合戦略（案）に掲げた指標は非常にしっかりと考えられていると思うので、比較できる資料を添付された方がわかりやすかったのではないかと思います。

次に、4ページ「SDGsに関する取組」について、第2期総合戦略（案）では、すべての分野を網羅的に記載するのではなく、とりわけ地方創生に関する分野に注力するという一方で、これまでの戦略会議でも議論がされてきたところである。そのため、SDGsの17のゴールのうち、5つに注力するという記載になっているのかと思うが、文章として、そのことをもう少し読み取りやすいように工夫されてはどうか。

次に、人口について、個人的に加古川市は全国的に人口減少にある中においても人口を維持・増加させるだけのポテンシャルがあると感じている。そのためには、JR加古川駅周辺の再整備や公共交通、教育、産業

にいかに取り組んでいくかが重要である。また、加古川をはじめとした豊かな自然も魅力であると思う。現在、日本にいる 200 羽程度のコウノトリの 3 分の 1 が東播磨に飛来しており、かつ、その半数が加古川市に來ている。そのような点から考えると、19 ページの (3)「楽しめるまちをつくり、人の流れをつくる」に“自然”を文言として追記してもよいのではないか。

次に、13 ページの (3)「魅力的な教育環境をつくる」の重要業績評価指標 (KPI)「ICT を活用した教育活動を毎日実施した学級の割合」について、当該指標とその目標値 100%は、他の多くの自治体でも達成可能なものであるように思う。例えば、学校以外の自宅などでも ICT が活用できるといった指標の方が加古川市の独自性が出てよいのではないか。

次に、14 ページの (1)「若者等の就労を支援する」の重要業績評価指標 (KPI)「合同就職面接会等の参加者数」について、様々な場面でオンラインの活用が進む中、目標値の 200 人は設定が低いように感じる。目標値の設定をどうするかは非常に悩ましく、必ずしも高く設定することがよいわけではないことは理解しているが、今後の可能性を含めて目標値をあらためてご検討いただいてはどうか。また、第 1 期総合戦略と比較し、しごと（働く場）の創出の記載が非常に充実していることを評価したい。

次に、16 ページの (4)「多様な働き方を支援する」の重要業績評価指標 (KPI)「ワーク・ライフ・バランス認定企業数」について、リモートワークの推進や働き方改革の推進を掲げるのであれば、基準値の 7 件よりも高い目標値に設定すべきではないかと思う。

最後に、加古川市が今後取り組もうとしている「河川敷を活用した取組」の件数を指標に設定されたことや、情報発信に関する指標を前回の「市ホームページのアクセス件数」から「公式 SNS の登録者数」に変更されたことは非常に評価したい。

市長：非常に多くのご意見をいただき、感謝申しあげる。4 ページ「SDGs に関する取組」の記載については、本市が 17 のゴールのうちの 5 つしか目指さないというような誤解を生じないように、総合計画との関連を含めた表現をあらためて検討したい。また、“自然”の表現については、19 ページの (3)「楽しめるまちをつくり、人の流れをつくる」で自然を感じることができる内容を記載しているところであり、修正の有無を含めて検討させていただく。

次に、指標の目標値設定については、ご意見のとおりかと思うので、関係部と数値を上方修正することで調整したい。また、重要業績評価指標 (KPI) の「ICT を活用した教育活動を毎日実施した学級の割合」については、どのような記載ができるかはわからないが、指標又は文章の記載を修正することで、あらためて検討したい。

事務局： 重要業績評価指標（KPI）の「ICT を活用した教育活動を毎日実施した学級の割合」及び「ワーク・ライフ・バランス認定企業数」については、現在、策定作業を進めている「第3期かこがわ教育ビジョン」、「第5次加古川市男女共同参画行動計画」と整合を図る必要があるため、あらためて関係部と協議・調整させていただきたい。

委員： 加古川市がスマートシティに積極的に取り組んでいることは随分、浸透してきていると思う。そこで、まちづくりの観点から申しあげると、スマートシティだけではなく、対外的に一言でイメージがわかるようなキャッチコピーを付け、それに紐づく形で様々な施策を展開することで、市のイメージアップ、ひいては、基本目標3の指標名称である「住みたいまち、行きたいまち」につながるのではないかとと思う。

委員： 第2期総合戦略（案）全体を通して、“ひと”、“しごと”、“まち”に施策体系を見直し、地方創生に資する取組に注力する市の姿勢が出ている計画になっているかと思う。今後は、来年度以降に、どのようにこの戦略に基づき施策が実行されていくのかが重要になってくるので、しごと（働く場）の創出や事業承継への取組など、可能な限りご協力したいと考えている。

また、第2期総合戦略（案）の計画期間は6年間であるが、このたびの新型コロナウイルス感染症の拡大のように、これまで予期していなかった事象が計画期間中に起こる可能性も十分に考えられるし、飛躍的に技術革新が進む可能性もあるかと思う。そのような場合に、掲げた指標や内容を見直す必要も出てくるかと思うが、そのような機会はあるのか。

事務局： 第2期総合戦略については、単なる計画ではなく実行性が問われるものであると認識している。そのため、社会の動きに応じて、適宜、内容及び指標の修正は必要であると考えている。その際は、第2期総合戦略（案）21ページの（2）「効果検証」に記載のとおり、この創生戦略会議の議題としてお示しし、皆さまのご意見を踏まえながら進めていきたいと考えている。

委員： 事務局のご認識のとおり、このような計画には柔軟性が重要であるので、社会情勢を注視しながら進めていってほしいと思う。

また、個人的な意見になるが、市のイメージ戦略や交流人口の増加を図るうえでは、最近で言うところのアニメのように、世間からの注目を集めているものと何か関連付けができないかという視点も重要であると思う。例えば、“棋士のまち”と将棋関連のアニメとのコラボレーションも面白いのではないかとと思う。都心部からの交通アクセスが不便な地域においても、何かしらのきっかけで人の流れがつけられることがあるの

で、そのようなアプローチを検討してみてもよいのではないかと思います。

委員： 今年、株式会社パソナグループが本社機能を淡路島に移転することが大きな話題になったかと思う。第2期総合戦略（案）では、15 ページに企業誘致等について記載されているが、最近の流れとして、本社機能の移転等について関心のある企業も多いかと思うので、それらの企業が移転場所として魅力を感じるような加古川市になれるよう取組を進めてもらいたい。新たな企業が来ることで、雇用の創出、ひいては“まちのにぎわい”につながると思うので、第2期総合戦略の1つの大きな柱であると考えている。

市長： 企業立地という点でみて、加古川市は企業側のニーズが高いというご意見を兵庫県からもいただいている。兵庫県や企業などのご意見も参考にしながら、重要業績評価指標（KPI）に掲げている「企業誘致・企業立地件数」の目標値を達成できるよう、しっかりと進めていきたいと考えている。

委員： JR 加古川駅周辺の再整備と新たな産業用地の創出については、簡単に進むものではないと思うが、しっかりと取り組んでいただきたいと思う。また、ふるさと納税については、パンフレットや返礼品と非常に内容が充実していると思う。加古川市をPRするためには必要不可欠な制度であり、返礼品を提供する地域企業の運営にも貢献するものかと思うので、引き続き積極的に取り組んでもらいたい。

委員： 先ほど、ご意見いただいた「合同就職面接会等の参加者数」の目標値については、合同就職面接会はハローワークが主催しており、今後、オンラインを活用した実施の可能性もあるかと思うので、事務局とあらためて調整させていただければと思う。また、ハローワークの新たな試みとして、企業間の交流が生まれるような取組を実施できないかと検討しているところであり、市の担当部署とも今後調整することができればと考えている。

次に、先ほど、“自然”に関するご意見があったが、“加古川”は本当に素晴らしい市の財産であると思う。19 ページの（3）「楽しめるまちをつくり、人の流れをつくる」で記載はいただいているが、河川敷を活用した取組には大いに期待している。

最後に、個人的な意見として、加古川市のドライバーの質が非常によいと感じている。横断歩道で停車してくれる車も多く、そういった点が“住みたいまち”につながると思う。18 ページの（1）「安全・安心なまちをつくる」を併せて、そのようなこともPRしてはどうかと思う。

委員： 加古川図書館を JR 加古川駅前に移転する方針があるかと思うが、駅前の活性化としても非常によいと思うので、13 ページの（３）「魅力的な教育環境をつくる」に何かしらの表現を追加してはどうか。図書館の空席状況をスマートフォンで確認できるなど、図書館と加古川市が進めるスマートシティを上手く連携させることもできるかと思うので、意見させていただいた。

また、11 ページの（１）「安心して結婚・出産できる環境をつくる」の重要業績評価指標（KPI）として「婚姻数」を掲げているが、なかなか目標値を達成することは難しいと思うので、第１期総合戦略で掲げていた「婚活イベントの開催回数」を追加で設定してはどうかと思う。県の取組として実施している婚活イベントにおいては、カップルが成立する確率も割と高く、結婚を希望する方の思いをかなえる取組として一定程度、寄与しているものと考えている。

事務局： 指標の設定としてご意見いただいた「婚活イベントの開催回数」について、第２期総合戦略（案）における本市の方向性としては、市が主催で婚活イベントを開催するというのではなく、市民活動団体や民間事業者等が実施する婚活イベントを支援する形で進めたいと考えている。また、これまでの実績として、市主催のイベントも含め、カップリング後に結婚に至ったかまでを把握することが難しいという課題もある。そのため、結婚に関する指標としては、「婚姻数」を設定することで整理した。

市長： 加古川図書館の移転については、来年 10 月に JR 加古川駅前の商業施設内での開館を予定しており、自主学习スペースも設けたいと考えている。また、子どもたちが一人一台のパソコン端末を持つこともあり、そのことと連携した取組についても検討していきたい。

委員： 若い世代の転入促進という点では、大学としても頑張らないといけないところであり、19 ページの（４）「地域連携・官民等連携により元気・魅力を高める」において、大学との連携も記載いただいていることから、しっかりと連携・協力していきたいと考えているので、よろしく願いしたい。

また、この第２期総合戦略（案）の策定にあたっては、コンサルタント業務の委託を行っているのか。

事務局： 9 ページの将来の目標人口を算出するにあたってのシミュレーション作業や計算業務、第２期総合戦略（案）が確定した後のレイアウト調整や製本作業について業務委託契約を締結している。

委員： 何を申しあげたかったかと言うと、第1期総合戦略については、国の「まち・ひと・しごと創生法」の制定により、多くの自治体が同時期にコンサルタント会社に委託を行い策定したことから、内容としても似たり寄ったりの計画になっていたかと思う。

しかしながら、本日お示しいただいた第2期総合戦略（案）については、第1期総合戦略から施策体系を見直し、総合計画とのすみ分けもしっかりと行ったうえで、新たに重点施策として、「しごと（働く場）の創出」を掲げるなど、加古川市の独自性と今後の6年間の方向性が明確に示された計画になっていると思う。また、それをコンサルタント会社ではなく、市職員の方が作成されたことを非常に評価したい。今後重要になってくる来年度以降の具体的な施策の実行や、それに基づく内容の修正、指標の見直しにおいても、市職員の方の計画策定能力や政策立案能力は非常に重要であり、この機会にそういった能力を高めることができた点は今後の市政運営に非常に生きてくると思う。

個人の意見としては、これまでの戦略会議での意見も踏まえ、しっかりと分析、論理立てされた加古川市らしさがみえる計画であり、何も申しあげることではなく、大変すばらしいと思っている。

市長： ありがたいお言葉である。いただいたご意見は職員間で共有しながら職員のモチベーションアップにつなげていきたいと思う。

市長： 他にご意見やご質問はないようなので、次第3の第2期総合戦略（案）についてを終了させていただく。事務局から他に何かあるか。

事務局： 事務局から1つご報告させていただく。本日いただいたご意見を踏まえ、本日お示しした第2期総合戦略（案）を修正したうえで、12月23日（水）から令和3年1月21日（木）まで、市民の方等から第2期総合戦略（案）に対する意見を募集するパブリックコメントを実施する予定としている。

○ その他

（意見及び質疑等なし）

○ 閉会